

時村君

昭和十一年十二月五日

理財局 調查情報 第四號

理財局 國庫課 調査掛

理財局 調查情報 第四號

340.59  
R  
2311



明治

目次

最近ニ於ル金問題諸説	其ノ一	一
佛國獨立債還金庫ノ發續		一
伊太和平價切下法要旨		一七
米國一九三六年上半年國際收支		一九
金融事情		二一
資料		
主要國財政經濟日誌		二五
經濟統計		三〇
主要國金融市場		三〇
中央銀行概況		
中央銀行金利		
金融市場		
日本銀行概況		
東京市中金利		
東京手形交換高		
		三八

日本銀行 中央銀行 總務部 會計部 監事部 印刷部 庶務部 出納部 倉庫部 調査部 研究部 顧問部 印刷部 庶務部 出納部 倉庫部 調査部 研究部 顧問部

外國爲替市場 ..... 四四  
 正金建值 英米爲替相場 金銀相場 ..... 四四  
 證券市場 ..... 四九  
 東株相場 ..... 四九  
 商品市場 ..... 五〇

紹介

税制改革ノ金融界ニ及ボス影響 ..... 五三  
 税整築ノ金融界ヘノ影響 新税制ノ金融界ヘノ影響 ..... 五三  
 公債市價下落ノ意味 ..... 五六  
 準戦時体制ノ内在的矛盾 短資引締ノ實相及前途 ..... 五六  
 民間資金需要増加傾向 ..... 六〇  
 産業資金ノ需要急増トソノ背景 ..... 六〇

通商手続ノ簡便化等イノノ旨

其間金幣兌換率取戻

紙幣額本國ノ内外両方皆一様維持ノ旨

公債市場ノ整理

外債ノ金貨界ニ及ボス影響

附 介

商品市場

東京株式

債券市場

五公債額一ノ米穀市場中ノ地位

以陽谷市場

最近ニ於ル金問題諸説 其ノ一

最近刊出シタ海外諸雜誌ノ中デ金ノ需要供給及其ノ價值ニ關スル論文  
ガ二三見交ケラレタ

其ノ一ハ本年七月附 Skandinavisk Ka Kreditaktie Bolaget, Quarter

ly Report 誌上公ニサレタ G. Gussel 教授ノ「金價值ノ將來」デアリ、

其ノ二ハ同シク九月附 The economic journal 誌ニ載セラレタ

F. M. Keyens 氏ノ「金ノ供給」ト題スル論文デアル。筆者ガ共ニ現代貨

幣論ヲ代表スベキ碩學タルコトハ今更紹介ヲ要シナイ、以下之ガ要旨

ヲ省釋スルコトニシヨウ

一、金 價 値 の 將 來

クスターヴカツセル

晩近金ノ産出ハ巨額ニ上リタメニ金ノ供給過剰時代ガ到來スルニ非  
ルカトノ懸念ガ流布シテキルヤウデアアル。ダガソノ觀察ハ必シモ正  
ヲ得テキルト言ヘヌ。

此ノ問題ヲ取扱フニ際シテハ元ツ「生常」ナル金生産ノ意義ヲ規定  
ナケレバ過剰ナリヤ否ヲ判断シ得ヌ答デアアル。若シ世界ニ於ル經濟  
歩ノ率ヲ年三%ト假定スルナラ之ニ相當シタ金ノ増加ガ「正常」ナ  
加ト言ヘル譯デアリ、而テ余ノ舊調査 ( Theory of social

economy. ) ニヨルト一八五〇年乃至一九一〇年ニ於テハ物價水準維  
ノタメ平均三%ノ増加ガ實際上必要ダツタノデアアル。若シ當該年首  
於ル金ノ量ヲ基礎トシテ其ノ年内ニ於ル産出額ヲ除シ之ヲ増加率ト  
フナラバ一九二〇年代ニ於ル金増加率ハ僅ニ二%ヲ超ユルニ止リ、

左の如ク一九三五年度ニ於テハ末ダ正常率三%ニ達シテ居ナイガ一九三  
右ノ如ク一九三五年度ニ於テハ末ダ正常率三%ニ達シテ居ナイガ一九三

ノ舊調査當時ノ三分ノ二ニ過ギナカッタノデアアルガ近時金價値ノ上昇ニ伴ヒ年々ソノ増加率ハ急激ニ向上シ今デハ三%ノ正常率ニ復セントスル情勢ヲ示シテ居ル。一九三〇年來金ノ供給量ハ獨逸産貨デ計算スルト次表ノ示ス如クデアアル(此ノ表中余ハ舊調査ノ例ニヨリ金ノ喪失量トシテ千分ノ二ヲ控除スル)。



年	年産金額 百萬圓	年末ニ於ル金現在額 百萬圓	年首比増加率 %
一九三〇年	一八〇二	八三二〇六	二二一
一九三一年	一九二〇	八四九六〇	二三一
一九三二年	三一〇四	八六八九四	二四八
一九三三年	三一八二	八八九〇二	二五一
一九三四年	三三九七	九一一二一	二七〇
一九三五年	三六四七	九三五六六	二九〇



一九二五年	二六四〇	二六四〇
一九二六年	二七五〇	二七五〇
一九二七年	二八六〇	二八六〇
一九二八年	二九七〇	二九七〇
一九二九年	三〇八〇	三〇八〇
一九三〇年	三一〇〇	三一〇〇
一九三一年	三二一〇	三二一〇
一九三二年	三三二〇	三三二〇
一九三三年	三四三〇	三四三〇
一九三四年	三五四〇	三五四〇
一九三五年	三六五〇	三六五〇
一九三六年	三七六〇	三七六〇
一九三七年	三八七〇	三八七〇
一九三八年	三九八〇	三九八〇
一九三九年	四〇九〇	四〇九〇
一九四〇年	四二〇〇	四二〇〇
一九四一年	四三一〇	四三一〇
一九四二年	四四二〇	四四二〇
一九四三年	四五三〇	四五三〇
一九四四年	四六四〇	四六四〇
一九四五年	四七五〇	四七五〇
一九四六年	四八六〇	四八六〇
一九四七年	四九七〇	四九七〇
一九四八年	五〇八〇	五〇八〇
一九四九年	五一九〇	五一九〇
一九五〇年	五三〇〇	五三〇〇

六年ノ「正常」生産額ハ二八一〇〇〇〇〇〇〇麻デアルガ實際ハ之ヲ突破シテソノ増加率モ上昇スルモノト思ハレル。併シ夫カト言ツテカカル過剰生産ニヨリ警戒ヲ要スルト言フ徴候ハ今ノ處見受けラレナイ。若シ生産量ガ四%ニノポリ「正常」増加率ヲ一%方上廻レバ一般金物價水準モ上昇スルデアラウガ夫トモ格別警戒ヲ要スル程ノモノデハナイ。

以上述べた處ニヨリ斯カル問題ヲ唯莫然ト「甚シキ過剰。」等々ノ言葉ヲ用ヒテ抽象的ニ取扱フ丈デハ満足セズ更ニ進ンデ之ヲ數量的ニ取扱フコトガ必シモ絶對ニ必要ダト言ヘヌ迄モ如何ニ有用デアルカガ判然トスルデアラウ。現在ニ於ル金ノ生産ハ世界貨幣ノ將來ニ何等ノ不安ヲ與ヘルモノデハナイ。然ルニ金ノ過剰生産ガ誇張セラレル結果脅威的ナ過剰ヲ防止スルタメ國際的ニ其ノ生産ヲ抑止スベキデアルト言フ見解サヘ一部デハ行ハレテ居ルノデアアル。カ、ル國際的ナ統制ガ到底行ヒ得ザルコトハ現在ノ世界情勢ヲ見テ容易ニ理解シウル處デアアル。

ケレトモ此ノ種ノ生産制限ハ又吾人ノ舊調査ニ見ル如ク全然不必要ナ  
ノデアル。蓋シ萬一生産ガ著シク過剩ダト言フナラバ過剩部分支金準  
備ニ關スル規定ヲ嚴重ニスレバ良イカラデアル。

以上ノ結論ハ世界經濟發展ハ年三%デアルトイフ假定ニ基イテキルノ  
デアルガ、實際上經濟發展ノ速度ガ之レヨリモ緩慢デアルト言フコト  
ハ有リ得ル所デ此處數年ノ如ク各國ガ自給經濟ノ確立ヲ日指シ通商ヲ阻  
害スレバ一般的發展ハ緩慢タルヲ免レヌシ、各國ノ對内政策ニヨリ企  
業ヲ麻痺セシメ資本ノ稱成ヲ阻グルニ於テハ其ノ發展ヲ全然停止セシ  
ムルデアラウ。斯ク一般經濟發展ノ停止セル場合ヲ考ヘレバ金ノ生産  
ハ現實ニ消費セラレル量ヲ補填スルニ必要ナ額以外ニハ不必要デア  
ル。ル狀況ノ下ニテハ現實ニ生産サレタ金ノ増加ニ基キ一年ニ三%乃  
至四%、或ハ更ニ著シキ物價騰貴ヲ見ルデアラウ。ダガ斯クシテ物價  
ガ騰貴スレバ經濟活動ヲ促進シ新シキ發展ヲ示シ其ノタメニ金ノ生産  
ヲ必要トスルコトニナル。恐ラク此ノ場合ニハ甚シキ好況ト之ニ續ク





七十五  
而て加へば其時貯水率ノ上其額ノ金對照ノ不審也或ハ其ハナリ  
○〇年代ノ一六三〇年間ニ於テ最盛期ニ至リ得ルハノ備メテ預リ  
一六三六六月十一日付銀兩金銀貨計共ハ銀兩ノ金額計表ハ一八  
本サメ少少現ハ式預貯金等ノ増大ニ由リ得ルニ示スルヤテ  
シニハノ入庫品ニ銀兩ノ金額計表ハ一八〇〇年ノ上其額ノ金對照  
一六三〇年代モ一六三六年代ノ銀兩ノ入庫ノ大額モ一八〇〇年  
一六三六年代ノ上其額ノ金對照ノ大額モ一八〇〇年ノ上其額ノ金對照  
一六三六年代ノ上其額ノ金對照ノ大額モ一八〇〇年ノ上其額ノ金對照  
一六三六年代ノ上其額ノ金對照ノ大額モ一八〇〇年ノ上其額ノ金對照

金ノ生産ガ著増シタニ拘ハラズ金ノ價值ガカクモ騰貴シタ原因ハ金ノ  
需要ノ増大ニ外ナラナイ。金需要ノ増大シタノハ流動性ヲ欲スルノ餘  
リ各種資産ヲ金又ハ金貨幣ニ換ヘテ結果デアアル。中央銀行ハ金通貨ヲ  
管理スル局ニ當ルタメ金準備ノ維持ヲ強制セラレ一九二〇年乃至三五  
年ノ十五年間ニ諸中央銀行ノ準備ハ七二〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇舊弗ヨリ一  
三二〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇舊弗ニ即チ六〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇舊弗ハ一〇〇  
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇新弗)ニ餘ル増加ヲ示シタノデアリ、此ノ増加率ガ  
正常増加率ヲ遙ニ凌駕シテ活ルコトハ勿論デアアル。  
又コノ外ニ民間ニ於ル退藏金及二三ノ國ニ於ル爲替平衡資金ノ保有金  
ヲモ考慮セバナラナイ。前記國際決済銀行ノ報告ハ一九三一年九月  
以來是等退藏セラレタル金額ヲ五二〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇新弗ト計算シタガ是ヲ上述セシ中央銀行ノ保有ニ  
準備ノ増加ニ比スレバ六分ノ一ニ過ギズ、金需要ノ中デハ小部分ヲ占  
メルニ止ル。又之ト反對ニ印度ニ於ル退藏金ノ撤布及輸出ニ關係デア

ルガ、一九三一年乃至一九三五年ノ間ニ印度ヨリ輸出セラタ金ノ量ハ  
三三四五〇〇〇〇〇〇〇〇瑞西法ニ上リ、之ヲ控除スレバ純退藏量ハ一八  
五五〇〇〇〇〇〇〇瑞西法即チ六〇〇〇〇〇〇〇〇新弗、近年不況時ニ  
於テ見受ケラレタ巨額ノ金需要ニ比較スレバ更ニ一層ソノ重要ヲ失  
フ辭デアル。斯クノ如ク、需要増加ノ主因ハ中央銀行ニ於ル金準備ノ  
増大ニ在ルコト明デアリ、西歐ニ於ル民間退藏金ガ解放セラタトシテ  
モ貨幣的供給ガ稀ハレルモノトモ言ヘナイノデアアル。蓋シ此ノ解放額  
ハ再ビ印皮ニ吸収サレヌトモ限ラズ又吸収サレナイニシタ處デ此ノ退  
藏金解放額ハ中央銀行ノ準備ヲ幾ラモ増加スルモノデモナイカラデア  
ル。  
不況ノタメ工乘用金ガ著シク減少シ乃至ハ金價值ノ上昇ノタメ既製ノ  
金商品ノ溶解ガ行ハレルナラバ兎モ角、サモナケレバ貨幣的目的ニ充  
テラル、需要ノ斯クノ如ク著シキ増加ハ金價值ヲ上昇セシメズニ措カ  
ナイノデアアル。

Handwritten text on the right page, mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.

過去ノ經驗ニ徴シテ將來數年間ニ於ル金價値ノ趨勢ヲ考ヘルト幾分トモ低落ヲ連ルニ非ルカト思ハレル。勿論此ノ點ニ付テ適確ナ豫想ヲナスコトハ不可能デアルケレドモ、國家財政ノ困窮ハ再軍備ノ進行ニヨリ益々激化シソノタメ新規ノ支拂手段ノ創造ヲ招來ナルコトトナレバ物價ハ上騰スベク。且低金利政策ニ信用膨脹ヲ目的トスル通貨政策モ亦之ニ拍車ヲカケルモノト言ヘヤウ。

併シ指導的地位ニアル國家ガ金價値ヲ物價水準ニ應ジテ引上ゲルコトモ起リ得ルコトデ。周知ノ如ク米國デハ金價値引上ノ餘地ヲナホ十八%殘シテ居ル有様デアリ、若シ米國ガ之ヲ完全ニ利用スルニ至レバ英國モ亦之ニ相應シテ金價價格ガ物價ノ騰貴シタ丈丁度騰貴シタノデアツタナラ商品ニ對スル關係デハ金價値ハ變化セズ、從テ金價値漸落ノ見込ハ立タナクナル譯デアル。

一般ノ人々ニハ貨幣價値ノ單位トシテ金ヲ用フルコトヲ廢止スレバ金價値ガ急激ニ低落スルト思ツテ居ルガ之ハ必シモ正シクナイ。英國ヤ

瑞典ノ如ク金本位ヲ離脱シタ國デモ從來通り金ノ吸收ニ努メテ居リル  
 ヤウナ有様デ世界諸國ガ金ヲ特別ニ流動性アル安全ナ資産デアルト考  
 ヘル限り金ヲ保持スルデアラウ。  
 乍併以上ニ見タ如ク金價值低下ノ趨勢ガ之ト逆行スル要因ニヨリ阻止  
 セラレルデアラウト言フコトモ亦相當根據アル考方デ、一般ニ債務者  
 ハ債務ヲ金デ支拂フ權利ヲ有シコノ權利ハ容易ニ奪ハレルコトハナク、  
 萬一之ヲ奪ハントセバ寧ロ支拂ハ拒レヤウ。シカルニ國際決済ハ一切  
 金ニヨル外ナク國內ニ於テモ金支拂ヲ禁ズル如キ立法ノ行ハレルコト  
 ハ考ヘラレズ而モ金拂ノ可能ナル既存債務ガ巨額ニ上ル現情ニ在テハ  
 債務者ハ元利支拂ノ必要上金ヲ需要シ其ノ結果金價值ノ低落ハ簡單ニ  
 ハ行ハレヌノデアル。  
 又吾人ハ世界經濟ガ舊時ノ如ク繁榮シ、舊時ノ如キ發展ニ復スナラバ  
 工業ニ用フル金ノ需要モ舊ニ復スノデハナイカト思フノデアル。此ノ  
 工業用ノ需要ハ又常ニ金價值ヲ維持スル重大ナ要素デアル。



佛國獨立償還金庫ノ業績。

國家財政ニ於ケル國債ノ地位ハ近來經濟恐慌ノ深化トソレニ基ク國際情勢ノ惡化ニ依リ一方ニ於テハ歳入ノ激減ト他方ニ於テハ諸般ノ歳出激增ノ故ニ益々重キヲ加フルニ到ツタノデアアルガ、所謂赤字公債ニ依ル財政ノ均衡ハ同時ニ國債償還ノ負擔増大トシテ更ニ財政ノ不均衡ヲ擴大スルモノデアリ、從ツテ國債ノ償還並利拂答國政府ノ最モ關心スル對策ノ一ツデアアル

既ニ佛蘭西ニ於テハ大戰ニ基ク莫大ナ公債ノ處分ノ爲メ一方ニハ平價切下ニ依ル公債ノ實質的減額ヲ計リ又他方特別ナ金庫ヲ設置シ該金庫ニ對シ一定財源ヲ賦與スルト共ニ公債ノ借替、償還其ノ他ノ業務ヲ行ハシメ以テソノ國家財政ニ對スル重座ヲ回避セントシタノデアアル。石ノ金庫ハ獨立償還金庫ニ稱セラレ最近ニ於テ八年々約三十億法以上ニ上ル公債利拂償還ヲ國家財政ノ爲メニ負擔シテ居ルノデアアル。以下該金庫ノ一九三五年度ニ於ケル償還業績ヲ見ヤウ。一九三五年度ニ

於ケル金庫ノ償還業務ハ前二年度ニ比シ著ルシイ活況ヲ呈シタノデア  
 ツテ、先ヅ國家財政ノ負擔ヲ軽減シ、國家ノ財政建直シ策ニ協力スル  
 爲メ同年七月二十六日付ノ協定ニ依リ預金、供託金庫ガ各種社會福利  
 増進ノ爲メニ法律ニ從ツテ爲シタ政府貸上金ニ對シ政府ガ預金供託金  
 庫ニ引渡シタ國防證券及ビ國庫債券ノ償還ヲ引受ケルト共ニ他方金庫  
 ハ一九三五年九月十九日付協定ニ基キ一九二八年發行四分利付一九二九  
 年三二二三年發行四分五厘付一九三四年三五年五分利付郵便電信電  
 話公債ノ償還ニ同意シタノデアアル。此ノ新ナル負擔ハ一九三五年十月  
 一日以降同金庫ニ賦與サレタ「マツナー」專賣收入ニ對スル代價デアアル  
 又佛蘭西銀行ニ引渡サレタ金庫證券償還ノ爲メ金庫收入ヨリ控除セル  
 額ハ八千八百萬法ニ上リ、右ノ償還ノ爲メ特ニ充當セラレタ收入ヲ加  
 算スレバ右金庫證券ノ同年度ニ於ケル減少ハ一億二百萬法ニ上ツタノ  
 デアル。

更ニ取引所ニ於ケル買戻償還ハ一九三四年ノ四億六千九百萬法、一九



一九三五年度ニ於テハ買換額二億一千三百萬法ニ達シ、

一九三六年度現在ニ於テハ其ノ剩餘資金ハ五億法以下ニ減ジテ其ノ機

能ニ危懼ノ念ガ懐カルルニ到ツタノデアル。蓋シ法律上金庫ニ與ヘラ

レタ資源ハ煙草及ビ燐寸賣買收入及ビ租稅收入デアリ、從ツテ經濟活

躍ノ餘瀝ヲ受ケテ近年其ノ收入ガ激減スルニ到ツタカラデアアル。今之

ヲ一九三五年度ニ就イテ見ルニ其ノ内譯ハ左ノ如クデアアル。

三三年ノ二億六千萬法ニ對シ三五年年度ニ於テハ七億七千一百万法ニ上

リ又中期國庫債券ノ償還ハ約四百萬法、契約上ノ償還ハ二十七億六千五

百萬法ニ上リ、猶年金公債ト交換セラレル爲メ小額所有者ニ依ツテ引

渡サレタ永遠公債ハ百萬法ヲ越シタノデアル。

カクテ以上償還金庫ニ依ツテ一九三五年年度ニ爲サレタ公債償還額ハ、

租稅納入ニ代用サレタ諸證券約七百萬法ヲ加算スレバ三十六億五千萬

法ニ上リ、從ツテ、一九二六年十月一日同金庫設立以來爲シタ其ノ償

還總額ハ三百六十四億三千二百萬法トナツタワケデアアル。

併シカク巨額ニ就キ國庫ニ協力シタ結果金庫ノ財源ハ漸ク乏シクナリ

一九三六年度現在ニ於テハ其ノ剩餘資金ハ五億法以下ニ減ジテ其ノ機





伊太利平價切下法要旨  
一九三六年十月五日附勅令  
一九二七年十二月二十一日附勅令ノ變更  
第一條 伊太利「リラ」ノ實質價值ハ名目價值百「リラ」ニ就キ純金  
四。六七七「グラム」トス。  
第二條 前第一條ニ定メラレタル「リラ」ノ價值ハ將來勅令ヲ以テ十  
「パーセント」ヲ限度トシテ減價スル事ヲ得。  
第三條 伊太利銀行券、政府紙幣、補助貨ハ其ノ法定價值ヲ維持ス。  
第四條 伊太利銀行ハ前第一條ニ定メラレタル價值ヲ基礎トシテ一九  
三六年九月三十日現在ノ金準備、又ハ外貨ヲ再評價シ得、  
右ノ評價益ハ國家ニ歸屬ス。  
第五條 勅令ヲ以テ、資本移動並ニ外國トノ爲替取引ニ關スル規定ノ  
全部又ハ一部ヲ停止シ得  
第六條 勅令ヲ以テ細目規定ヲ公布ス。

伊太利平價切下法要旨

一九三六年十月五日附勅令

一九二七年十二月二十一日附勅令ノ變更

第一條 伊太利「リラ」ノ實質價值ハ名目價值百「リラ」ニ就キ純金  
四。六七七「グラム」トス。

第二條 前第一條ニ定メラレタル「リラ」ノ價值ハ將來勅令ヲ以テ十  
「パーセント」ヲ限度トシテ減價スル事ヲ得。

第三條 伊太利銀行券、政府紙幣、補助貨ハ其ノ法定價值ヲ維持ス。

第四條 伊太利銀行ハ前第一條ニ定メラレタル價值ヲ基礎トシテ一九  
三六年九月三十日現在ノ金準備、又ハ外貨ヲ再評價シ得、  
右ノ評價益ハ國家ニ歸屬ス。

第五條 勅令ヲ以テ、資本移動並ニ外國トノ爲替取引ニ關スル規定ノ  
全部又ハ一部ヲ停止シ得

第六條 勅令ヲ以テ細目規定ヲ公布ス。

第六種 議會を以て其の議案を公布ス。  
全篇又ハ一語ヲ改メテハ、

第五種 議會を以て其の本條を並ニ其の付則ハ其の如クニ改メテハ、

二六四六其三十百原市ノ選舉權ハ又ハ其ノ如クニ改メテハ、

第四種 而大に其ノ如クニ改メテハ、

第三種 而大に其ノ如クニ改メテハ、

第二種 而大に其ノ如クニ改メテハ、

第一種 而大に其ノ如クニ改メテハ、

附大正十年四月二十日  
附大正十年五月二十日  
附大正十年五月二十日

第七條 本勅令ハ官報掲載ノ日ヨリ施行セラレ、法律トナス爲メ議會  
ニ提出ス可シ。

米國一九三六年上半年國際收支

最近米國商務省ハ一九三六年上半年ノ國際收支概算ヲ發表シタ。今前年同期と比較シテ之ヲ左ニ示ス（單位百萬圓）

項 目	一九三六年上半年		前 年 同 期	
	受取勘定	支拂勘定	受取勘定	支拂勘定
一、商 品 貿 易	1144	1144	1011	1011
運 賃	24	20	24	24
觀 光 費	54	120	54	154
移民送金及寄附金(正味)				
利 子 及 配 當	120	20	114	20
其 他 雜	111	104	104	24
役務計(正味)				

三、金 及 銀	五、誤差脫漏等
金ノ輸出及輸入	
金ノ「イヤー」之解除	
銀ノ輸出及輸入	
金銀移動（正味）	
四、資 本 動 定	
民間資本投資	
證 券 接	
直 接	
通貨移動	
雜	
資本移動（正味）	

（註） ※印ハ護差脱漏中ニ計入  
 （資料）米、Federal Reserve Bulletin, Oct. 1936.

Table with multiple columns and rows, containing numerical data and some text. The text is faint and partially illegible, but appears to be a continuation of the data or a related report. The table structure is complex with many columns and rows, some containing numbers and others containing text.

金融事情 (十一月十六日—三十日)

上旬緩和過程極メテ遅々タリシ短資市況モ中旬ニ入り漸ク平靜ニ復シ、殊ニ十三日簡易保險ノ大阪市債引受金ガ市場ヲ潤シテ後ハ久方振ニ協定率七厘ヲ見ルニ至レリ、下旬ニ入りテ後ハ綿糸布、生糸ヲ主トスル輸出貿易ノ繁盛及滿洲特産出廻ニ因ル爲替資金ノ需要、北陸方面ヲ中心トスル米穀資金ノ地方流出、竝ニ朝鮮ニ於ル産業資金ノ増大等アリ、九、十兩月末ノ極度引締状態ニ鑑ミ本月末ハ短資ノ繁忙ヲ豫想セラレ、其ノ動向ハ一般ニ警戒注目セラレタル所ナリシモ既往ニ鑑ミ銀行筋ガ其ノ手許資金ノ充實ニ努メタル外更ニ政府當局ニ於テモ次官會議ノ席上各省ノ支拂促進方ヲ勸奨シ、年末金融ニ對シ關心ヲ示ス所アリ市場モ好感ヲ以テ迎へ安堵氣配ヲ呈シタルガ二十五日ノ如キ簡易保險運用金竝ニ米券市中償還等ヲ含メ相當巨額ノ資金ガ一時ニ市中ニ放出セラレタル等ニ依リ市中資金ハ豊富ナルヲ得タル爲九、十兩月末ニ比シ極メテ平穩裡ニ越月シ年末金融ニ對スル懸念モ著シク拂拭セラル、ニ至



Handwritten text in vertical columns, likely a ledger or journal entry, covering the right page of the spread.

レリ。

短資市場

「コール、レート」ハ月央來翌日物七厘ノ協定率ヲ續ケ連休明ノ二十四日ハ地方資金ノ流出ニ因リ五毛高ヲ見タルモ前記政府資金ノ放出ニ二十五日ヨリ二十七日ニカケテハ七厘物及七厘五毛物相半スル状態トナリ月末近トシテハ異狀ノ安値ヲ出現セルガ二十八日ニ至リ出手銀行ガ手許ヲ豊富ニシタル上昨日ノ大阪高ヲ受ケ五毛高ノ八厘中心トナリ三十日ハ信託會社決算關係ヨリ信託筋ノ回收ヲ契機ニ九厘ト引締ノ氣配ヲ呈シタルガ、鮮銀ガ限外發行ヲ行ヒ準備金ヲ解除シ及一流銀行ガ交換後ニ手許資金ヲ解放シタル結果却テ剩リ氣味トナリ爲替銀行ヘノ流入アリシタメ小量乍ラ六厘四分ノ三ノ安値ヲモ示現セリ。  
短資市場不安ニ出手皆無ナリシ長期物モ市場安堵氣配ニ二十六日頃ヨリ漸次小量ナガラ出廻ヲ見セ國債擔保三十日物九厘迄乃至九厘五毛見當ニテ出合進捗シ來レリ。

外國爲替市場

米國側ノ外資流入抑制及加盟銀行準備率再引上説等ノ材料ヲ入レ其米「クロス」ハ續騰ヲ來タセシモ圓爲替ハ外國爲替管理強化ノ決定、日獨防共協定成立、海外ニ於ル本邦債軟調等ヲ眺メ氣迷氣味ヲ示セリ。中旬ハ輸出「ビール」ノ出廻順調ナリシガ下旬ニ入りテハ稍々出溢リ反之棉花、羊毛ヲ中心ニ輸入手當見受ケラレ弱含ノ傾向ナリ。

公債市場

十五日外貨債特別稅稅率ノ發表ニ外貨債ハ一勢ニ崩落シ中ニハ爲替換算「パー」ヲ割ルモノサヘ見受ケラレルニ及ビ内國債モ一般ニ人氣ヲ奪ネ軟調ヲ示シタルモ、鐵道共濟組合ノ買入入札等ニ好感底入狀況トナリ短登市場ノ緩和ト共ニ相場徐々乍ラ恢復ノ傾向ヲ辿ル。

社債市場

所得稅改正稅率細目發表ノ結果社債市場モ四分三厘電力社債ハ九九圓

三、五十錢、四分五厘日窒社債一〇〇圓ト總シテ軟調ヲ免レズ。

株式市場

月ノ中旬ハ内外各方面ニ於ル好悪ノ材料錯綜シ氣透氣味ヲ免レズ、下旬ニ入りテ三十億圓ニ上ル豫算案ノ閣議決定ニ底意ハ堅調トナリシガ日獨防共協定ノ成立ハ國際關係ノ將來ニ一抹ノ懸念ヲ憶カシメ加之對英關係事業株ノ低落ヲ齎シ、更ニ支那問題等々ノ幅輳ニヨリ兎角鈍重ニ推移シ軟株概シテ軟調裡ニ越月セリ。

資料

一、主要國財政經濟日誌

昭和十二年

二月二日(水)

一三 (金)

佛	日	米	佛
下院ニ於テ一九三七年度豫算大綱ヲ發表、通常豫算ニ於ケル歳入四四三九六〇〇〇法、歳出四八一六八〇〇〇〇法、歳入不足三七七〇〇〇〇〇法特別豫算ニ於ケル歳出合計八一六〇五三〇〇〇〇〇法ニ及ブ	大藏省議ニ於テ庶民、恩給全庫設置ニ決定。	大統領ハ多額ノ外國資本ガ米國證券ニ投資ラルルコトハ通貨安定ヲ阻止スル恐レアルヲ以ツテ外國人ノ證券取得取締ニ關スル法律制定ノ必要アルヤ否ヤヲ考究中ナル旨發表。	下院軍委員會ハ「ダラデイエ」國防相ノ提出セル軍備充實案ヲ可決。

一四  
(土)

日

大藏省議ハ取引税ノ細目ヲ決定。  
政府ハ河川條項ニ關スル「ヴェルサイユ」條約ヲ廢棄  
スルニ決定シ其ノ旨ヲ關係國政府ヘ通告。

一五  
(日)

日  
獨。伊

大藏省ハ外貨債特別課稅要項ヲ發表。

一六  
(月)

滿

中央銀行ヨリノ借入金整理ノ爲三〇〇〇〇〇〇圓ノ  
四%利附一〇年期限ノ整理公債發行ニ決定。

米

大藏長官ハ一九三四年金準備法ニ基ク平價切下權ヲ更  
ニ延長スベク議會ニ要求スル旨發表。

一七  
(火)

英

大藏省ハ明年二月一日ニ償還セラルベキ五%利附米  
債公債及二%利附大藏省債券ノ償還及國防公債ノ發  
行ヲ控ヘ流動公債整理ノ目的ヲ以ツテ二%利附公債  
ヲ一般公募ノ方法ニテ發行スル旨公表。

一六(六)  
一五(五)  
一四(四)

大藏省ハ外國爲替管理委員會ヲ開キ外國爲替管理強化ニ關  
旨發表。  
大藏省ハ外國爲替管理委員會ヲ開キ外國爲替管理強化ニ關  
旨發表。  
大藏省ハ外國爲替管理委員會ヲ開キ外國爲替管理強化ニ關  
旨發表。  
大藏省ハ外國爲替管理委員會ヲ開キ外國爲替管理強化ニ關  
旨發表。

一八(水)  
一九(木)

獨。伊政府ハ西班牙反政府軍政權ヲ正式承認。  
借換ノ目的ヲ以テ亞爾然丁政府ハ一九七一年期限四之  
集。利附米貨公債二三、五〇〇、〇〇〇弗ヲ九二之%ニテ募

二〇(金)

獨 外國爲替統制ノ爲外國證券取締令公布、獨逸人ノ所有  
スル外國證券(日本國幣ヲ含ム)ハ十二月四日迄ニ外  
國爲替銀行ニ預入スベキ旨決定。  
滿洲興業銀行設立ノ旨發表。  
爲替管理局ハ經濟封鎖ニ對スル對抗手段ヲ緩和シ來ル  
十二月一日以降伊太利銀行其他外國爲替取扱機關ハ伊

二一(土)

日 大藏省ハ外國爲替管理委員會ヲ開キ外國爲替管理強化ニ關  
旨發表。  
大藏省ハ外國爲替管理委員會ヲ開キ外國爲替管理強化ニ關  
旨發表。  
大藏省ハ外國爲替管理委員會ヲ開キ外國爲替管理強化ニ關  
旨發表。

二 三 (月)	二 四 (火)	二 五 (水)	二 六 (木)	二 七 (金)
日	米	和	瑞西	日
スル大藏省令改正ノ件ヲ決定。	大藏省ハ滿洲國興業銀行設立ニ關スル經過及内容變表。	大藏長官ハ英米佛三國通貨協定ニ白、和、瑞西ガ正式ニ加入シ米國及右三國間ニ全交換協定ガ成立シ翌二十四日ヨリ實施セララル旨聲明。	四日ヨリ實施セララル旨聲明。 政府ハ英、米、佛三國通貨協定ニ參加スル旨聲明。 政府ハ英、米、佛三國通貨協定ニ參加スル旨ヲ右三國ニ對シ正式ニ通告。	英、米、佛三國通貨協定ニ參加スル旨發表。 日。獨防共協定成立。
瑞西	瑞西中央銀行公定割引歩合引下(二%ヨリ一%八)。	郵便貯金ノ利下決定(三厘六毛下ゲ、即チ二分六厘四毛ニ)。	金融評議會ヲ組織スルコトニ關シ決定。	

二  
三  
(月)

二  
四  
(火)

二  
五  
(水)

二  
六  
(木)

二  
七  
(金)

日

米

和

瑞西

日

スル大藏省令改正ノ件ヲ決定。

大藏省ハ滿洲國興業銀行設立ニ關スル經過及内容變表。

大藏長官ハ英米佛三國通貨協定ニ白、和、瑞西ガ正式ニ加入シ米國及右三國間ニ全交換協定ガ成立シ翌二十四日ヨリ實施セララル旨聲明。

四日ヨリ實施セララル旨聲明。  
政府ハ英、米、佛三國通貨協定ニ參加スル旨聲明。  
政府ハ英、米、佛三國通貨協定ニ參加スル旨ヲ右三國ニ對シ正式ニ通告。

英、米、佛三國通貨協定ニ參加スル旨發表。  
日。獨防共協定成立。

瑞西

瑞西中央銀行公定割引歩合引下(二%ヨリ一%八)。

郵便貯金ノ利下決定(三厘六毛下ゲ、即チ二分六厘四毛ニ)。

金融評議會ヲ組織スルコトニ關シ決定。

二八(六) 閣議ニテ昭和十二年度豫算決定、歳出入三〇四一、〇〇〇圓、公債八〇六〇〇〇〇圓。

二八(六) 緊急時ニ備ヘ食糧ノ分配統制ニ當ル機關トシテ食糧防衛企畫部創設ニ決定。

二八(六) 主都ニ革命勃發

二八(六) 閣議ニテ昭和十二年度豫算決定、歳出入三〇四一、〇〇〇圓、公債八〇六〇〇〇〇圓。

二八(六) 緊急時ニ備ヘ食糧ノ分配統制ニ當ル機關トシテ食糧防衛企畫部創設ニ決定。

二八(六) 主都ニ革命勃發

二八(土)

閣議ニテ昭和十二年度豫算決定、歳出入三〇四一、〇〇〇圓、公債八〇六〇〇〇〇圓。

緊急時ニ備ヘ食糧ノ分配統制ニ當ル機關トシテ食糧防衛企畫部創設ニ決定。

主都ニ革命勃發

エクス  
ドル



(二) 經濟統計

(1) 主要國金融市場

(1) 中央銀行概況

日本銀行

一九三六年十月三十一日

一、四五三、九六七

一、三六二、三一四

(單位 千圓)  
前年同期

發行兌換銀行券  
預金

政府

三二二、八六一

四一八、二四七

一般

七四一、七九

六三六、五八

計

三九七、〇四〇

四八二、九〇六

現金及地金

六〇一、三八〇

五四一、五一五

準備

三二〇、五%

二九〇、三%

公積引手

六三四、六三四

七四九、〇四七

債形

四五四、一三七

四五二、六四三

英 蘭 銀 行

(單位 千磅)

		一九三六年十月二十八日	前 年 同 期
銀行券流通高		四四二、七四一	三九九、八八九
現金			
政府		二七六〇七	二六二二六
銀行業者		八六五三三	八二、五二四
其他		四一、三六九	三八、五五二
計		一五五、五一〇	一四七、三〇二
金貨及金地金			
發券部		二四八、六六〇	一九四、六八三
營業部		九九五	八三七
計		二四九、六五五	一九五、五二〇

金準備率	四一三 <sup>三</sup> / <sub>二</sub> %	(付)	三七 <sup>三</sup> / <sub>二</sub> %
金ノ出入	一		三六〇
營業部 I			
政府證券	八〇一八三		八五八九〇
割引及貸付	六六〇一		一、二一〇
其他	一九五〇三		一、二七〇

總金 I	一、三六六、一八八	一、三六六、一八八
銀行券	八、六五三、三	八、六五三、三
現金	二、六〇〇	二、六〇〇
其他	一、五五五、一〇	一、五五五、一〇
銀行預金	一、一六六、八	一、一六六、八
其他	一、一六六、八	一、一六六、八
營業部 II	一、一六六、八	一、一六六、八
政府證券	八、六五三、三	八、六五三、三
割引及貸付	六六〇一	六六〇一
其他	一九五〇三	一九五〇三

米國聯邦準備銀行

預金 I		（單位 千弗）	
		一九三六年十月二十八日	前年 同期
加 盟 銀 行	六 七 三 二、〇 〇 三	五 六 五 三、九 八 九	
政 府	九 九 九 〇 三	六 〇 二 七 九	
外 國 銀 行	六 五 四 七 九	二 五 四 〇 二	
其 他	一 五 四 一 七 〇	二 七 〇 七 四 四	
計	七 〇 五 一、五 五 五	六 〇 〇 九 四 一 四	
聯 邦 準 備 券 流 通 高	四 〇 八 六、二 四 二	三、五 一、一、三 一 九	
準 備 I			
金 券	八 六 三 五、八 三 一	七 〇 二 六、六 二 三	
聯 邦 準 備 券	一 二、二 七 三	一 九 七 二 七	

米國聯邦準備銀行  
 一九三六年十月二十八日  
 前年 同期

其他ノ現金	計	率	備	率	割	引	手	形	一般市場ニテ買入レタル手形	米國政府證券保有高	其他證券	證券總計			
二六五八二五	八九一三九二九	八〇〇%	六一〇七	三〇八七	二四三〇二二七	一	二四六五七二〇		二三八九五三	七二八五三〇三	七六五%	六一二八	二四三〇一七二	一八一	二四七三八七六

Handwritten notes and tables on the right page, including a large table with multiple columns and rows of numbers and text, likely a continuation of the financial data from the left page.

佛 蘭 西 銀 行

一九三六年十月三十日

(單位 千法)

前 年 同 期

銀行券流通高	八七一九七六二八	八三三〇六一七一
預 金	一三一七九一九	一三三三二五七〇
金	六四三五八七四二	七一八九九七九二
金準備率	六四。〇%	七四。三%
外國公債！		
營運預金	五四六四	七八三〇
爲替手形	一、四五三、〇九〇	一、〇三六七一五

(2) 中央銀行公定金利

國 別	現 行 利 率	前 利 率
	改正日附 %	改正日附 %
日本 (日本銀行)	一九三六。四。七	一九三三。七。三
英國 (英屬銀行)	一九三二。六。三〇	一九三二。五。一
美國 (紐約聯邦儲備銀行)	一九三四。二。一	一九三三。〇。一
佛國 (佛蘭西銀行)	一九三六。〇。一五	一九三六。〇。八
伊國 (伊太利銀行)	一九三六。五。一八	一九三五。九。九
瑞選 (瑞選國銀行)	一九三二。九。二	一九三二。四。二
和蘭 (和蘭銀行)	一九三六。〇。一九	一九三六。七。六
白耳國 (白耳國立銀行)	一九三五。五。一五	一九三四。八。二
瑞典 (瑞典銀行)	一九三三。二。一	一九三三。六。一
瑞西 (瑞西國立銀行)	一九三六。一。二六	一九三六。九。九

Handwritten notes and tables on the right page, including a date stamp: 五月三十日

(四) 金融市場

(1) 日本銀行營業情況

(單位千圓)

項目	昭和十一年十一月十四日	全十一月廿一日	十月廿八日
負債ノ部			
資本金	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇
積立金及損益金	一三七,二〇二	一三七,三二二	一三七,四三一
發行兌換銀行券	一,二六四,四二六	一,三一九,八七九	一,四九一,一七九
政府預金	四一三,五〇四	三九六,九〇三	三三三,二〇四
內政府當座預金	二八九,九九五	二六八,一八一	二〇七,四三三
其他	一二三,五〇九	一二八,七二二	一二六,七七一
一般預金	五〇,六七八	五六,二七一	七一,三九五
小額無擔保儲蓄預金	一〇,九九〇	一〇,九九〇	一〇,九九〇
其他	九九,二八二	九一,九三〇	九〇,七九八
計	三,〇三六,〇八四	三,〇七三,二九六	三,一九五,九九九



資 産 ノ 部	
拂込未済資本金	一五〇〇〇
現金及地金	六〇三六四五
内金貨及金地金	五四一七六五
其他	六〇八七九
割引手形	五三〇〇六三
政府法定貸金	二二〇〇〇
政府一時貸金	一五三七五三
貸付金	三三二二〇
外國爲替貸金	一一七四九〇
公債	四四八一三七
代理店勘定	七二七〇八
政府勘定特殊現金	九九五一
<hr/>	
	一五〇〇〇
	六〇三六九四
	五四三九八六
	五九七〇八
	五三三二二二
	二二〇〇〇
	一五五七三六
	三二六二九
	一三〇八二二
	四四八一三七
	九〇八三八
	一〇二〇四
<hr/>	
	一五〇〇〇
	六〇三一七八
	五四四〇七八
	五八一〇〇
	五六八四四一
	二二〇〇〇
	一五七五一
	三二七九七
	一六五六一二
	五〇二二七〇
	八五六八七
	九九四七

(1) 日本銀行券  
 (2) 銀行券  
 (3) 郵便貯金  
 (4) 地方債  
 (5) 政府債  
 (6) 代理店勘定  
 (7) 政府勘定特殊現金  
 (8) 外國爲替貸金  
 (9) 貸付金  
 (10) 政府一時貸金  
 (11) 政府法定貸金  
 (12) 割引手形  
 (13) 其他  
 (14) 内金貨及金地金  
 (15) 現金及地金  
 (16) 拂込未済資本金

一九二〇年六月三十日  
 一五〇〇〇  
 六〇三六四五  
 五四一七六五  
 六〇八七九  
 五三〇〇六三  
 二二〇〇〇  
 一五三七五三  
 三三二二〇  
 一一七四九〇  
 四四八一三七  
 七二七〇八  
 九九五一

一九二〇年七月三十一日  
 一五〇〇〇  
 六〇三六九四  
 五四三九八六  
 五九七〇八  
 五三三二二二  
 二二〇〇〇  
 一五五七三六  
 三二六二九  
 一三〇八二二  
 四四八一三七  
 九〇八三八  
 一〇二〇四

一九二〇年八月三十一日  
 一五〇〇〇  
 六〇三一七八  
 五四四〇七八  
 五八一〇〇  
 五六八四四一  
 二二〇〇〇  
 一五七五一  
 三二七九七  
 一六五六一二  
 五〇二二七〇  
 八五六八七  
 九九四七

小額紙幣準備保管金  
 其他  
 計

三〇	一〇九九〇	一〇九九〇
三六〇	二二一二三	二二〇二一
八四三	七二二九六	二五五六一
三〇七二	三一九五九	九九九
一九五九	九九九	九九九

四〇

*[Faint, mirrored bleed-through text from the reverse side of the page, including words like "計", "金額", and various numbers.]*

(2) 東京市中金利

昭和十二年	翌日物	無條件	三十日物	早受手形	單名手形
十一月十一日	。七五。七五。七五	。八五。八〇。八〇	。九〇。九〇。九〇	。二五。二〇。二〇	。一五。一〇。一〇
十二月	。七五。七五。七〇	。八〇。八〇。七五	。九〇。九〇。九〇	。二五。二〇。二〇	。一五。一〇。一〇
十三日	。七五。七五。七〇	。八五。八〇。七五	。九〇。九〇。九〇	。二五。二〇。二〇	。一五。一〇。一〇
十四日	。七五。七五。七〇	。八五。八〇。七五	。九〇。九〇。九〇	。二五。二〇。二〇	。一五。一〇。一〇
十五日	休				
十六日	。七〇。七〇。七〇	。八〇。七五。七五	。九〇。九〇。九〇	。二五。二〇。二〇	。一五。一〇。一〇
十七日	。七〇。七〇。七〇	。八〇。七五。七五	。九〇。九〇。九〇	。二五。二〇。二〇	。一五。一〇。一〇
十八日	。七〇。七〇。七〇	。八〇。七五。七五	。九〇。九〇。九〇	。二五。二〇。二〇	。一五。一〇。一〇
十九日	。七〇。七〇。七〇	。八〇。七五。七五	。九〇。九〇。九〇	。二五。二〇。二〇	。一五。一〇。一〇
二十日	。七〇。七〇。七〇	。八〇。七五。七五	。九〇。九〇。九〇	。二五。二〇。二〇	。一五。一〇。一〇
二十一日	。七〇。七〇。七〇	。八〇。七五。七五	。九〇。九〇。九〇	。二五。二〇。二〇	。一五。一〇。一〇
二十二日	休	。八〇。七五。七五	。九〇。九〇。九〇	。二五。二〇。二〇	。一五。一〇。一〇



(3) 東京手形交換高

昭和十一年	交換高	交換高	昭和十年	交換高	交換高
十一月十一日	七、三三〇	千圓	九月二十日	八、五四〇	千圓
十二月	八、三七三	八	八月二十一日	六、五一七	〇、〇六九
十三日	七、三一五	二	〇、二二〇	三、二四四	六、七六七
十四日	六、九五七	八	〇、二二〇	三、二四四	九、七五六
十六日	八、六〇六	一	〇、四九二	二、六六一	一、四一七
十七日	七、六八三	四	九、八五八	二、二七二	八、三四〇
十八日	六、一七六	二	九、五一四	二、二八二	八、六三三
十九日	九、一九八	一	五、五二五	三、一〇一	七、〇三五
			三十日	一、一七〇	三、五二四
			十一月	一、七〇三	五、二四八
			十二月	〇、三五一	八、八九五

二十日  
二十一日  
二十二日  
二十三日  
二十四日  
二十五日  
二十六日  
二十七日  
二十八日  
二十九日  
三十日  
三十一日

外 國 爲 替 市 場  
 (山) 正 金 銀 行 建 値

月 日	昭 和 十 一 年	一 〇 一 一 二	一 〇 一 一 三	一 〇 一 一 四	一 〇 一 一 五	一 〇 一 一 六	一 〇 一 一 七	一 〇 一 一 八	一 〇 一 一 九	一 〇 一 二 〇	一 〇 一 二 一	一 〇 一 二 二
倫敦向	一圓ニ付	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一
シドニー向	一圓ニ付	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一	一〇一
巴里向	一圓ニ付	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇
柏林向	一圓ニ付	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇
紐育向	一圓ニ付	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八
カルカッタ向	一圓ニ付	七七	七七	七七	七七	七七	七七	七七	七七	七七	七七	七七
スラバヤ向	一圓ニ付	五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二	五二
上海向	一圓ニ付	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四

(8) 東京年紙交對高

日	交 對 高	日	交 對 高
十日	六八〇	二十日	六八〇
十一日	六八〇	二十一日	六八〇
十二日	六八〇	二十二日	六八〇
十三日	六八〇	二十三日	六八〇
十四日	六八〇	二十四日	六八〇
十五日	六八〇	二十五日	六八〇
十六日	六八〇	二十六日	六八〇
十七日	六八〇	二十七日	六八〇
十八日	六八〇	二十八日	六八〇
十九日	六八〇	二十九日	六八〇
二十日	六八〇	三十日	六八〇

三二二二二  
〇八七六五

〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃  
七〇%

〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃

〃 〃 〃 〃 〃  
五二%

〃 〃 〃 〃 〃  
一〇五%  
一〇五%

〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇
〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇

(2) 莫米爲替相場

昭和十一年	一月	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一四	一三	一二	一一
倫敦宛紐約相 場(二磅三付)	四・八八	四・八八	四・八八	四・八八	四・八八	四・八八	四・八八	四・八八	四・八八	四・八八	四・八八
紐約宛倫敦相 場(二磅三付)	四・八八	四・八八	四・八八	四・八八	四・八八	四・八八	四・八八	四・八八	四・八八	四・八八	四・八八

昭和十一年	一月	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一
倫敦宛紐約相 場(二磅三付)	四・八九	四・八九	四・八九	四・八九	四・八九	四・八九	四・八九	四・八九	四・八九	四・八九	四・八九
紐約宛倫敦相 場(二磅三付)	四・九〇	四・九〇	四・九〇	四・九〇	四・九〇	四・九〇	四・九〇	四・九〇	四・九〇	四・九〇	四・九〇



(8) 金銀相場 (倫敦及紐育建)

昭和十一年		倫敦		紐育	
一九	七〇	二一	三五	四七	七〇
一八	七〇	二一	三五	四五	七〇
一七	七〇	二一	三五	四五	七〇
一六	七〇	二一	三五	四五	七〇
一四	七〇	二一	三五	四五	七〇
一三	七〇	二一	三五	四五	七〇
一二	七〇	二〇	三五	四五	七〇
一一	七〇	二〇	三五	四五	七〇
一〇	七〇	二〇	三五	四五	七〇

(9) 金銀相場 (倫敦及紐育建)

昭和十一年		倫敦		紐育	
一九	七〇	二一	三五	四七	七〇
一八	七〇	二一	三五	四五	七〇
一七	七〇	二一	三五	四五	七〇
一六	七〇	二一	三五	四五	七〇
一四	七〇	二一	三五	四五	七〇
一三	七〇	二一	三五	四五	七〇
一二	七〇	二〇	三五	四五	七〇
一一	七〇	二〇	三五	四五	七〇
一〇	七〇	二〇	三五	四五	七〇

三〇 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二〇

七〇 七〇 七〇 七〇 七〇 七〇 七〇 七〇  
一〇 一〇 一〇 一〇 一〇 一〇 一〇 一〇  
一一 一一 一一 一一 一一 一一 一一 一一  
一〇 一〇 一〇 一〇 一〇 一〇 一〇 一〇

二二 二二 二二 二二 二二 二二 二二 二二  
一一 一一 一一 一一 一一 一一 一一 一一  
一〇 一〇 一〇 一〇 一〇 一〇 一〇 一〇

三 三 三 三 三 三 三 三  
五 五 五 五 五 五 五 五

四 四 四 四 四 四 四 四  
五 五 五 五 五 五 五 五  
一 一 一 一 一 一 一 一

(8) 金銀銅鐵 (會津五箇年表)

柳屋十一半

一一 一一 一一 一一 一一 一一 一一 一一  
〇 一 二 三 四 六 十 八 武

金銀銅鐵

中 中 中 中 中 中 中 中  
〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
二 二 二 二 二 二 二 二  
三 三 三 三 三 三 三 三

柳屋十一半

中 中 中 中 中 中 中 中  
〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
二 二 二 二 二 二 二 二  
三 三 三 三 三 三 三 三

柳屋十一半

中 中 中 中 中 中 中 中  
〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
二 二 二 二 二 二 二 二  
三 三 三 三 三 三 三 三

柳屋十一半

中 中 中 中 中 中 中 中  
〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
二 二 二 二 二 二 二 二  
三 三 三 三 三 三 三 三

(二) 證券市場  
東株建値

昭和十一年	國債				株式		(清算)		株式當日出來高	
	甲五分	一號四分	三分半	新泉(短)	東株	鐘誌	日産	長期	短期	
十一日	100.35	100.85	98.05	100.00	131.00	131.00	131.00	450000	950000	
十二日	100.35	100.85	98.05	100.00	131.00	131.00	131.00	450000	1100000	
十三日	100.35	100.85	98.05	100.00	131.00	131.00	131.00	450000	1100000	
十四日	100.35	100.85	98.05	100.00	131.00	131.00	131.00	450000	1100000	
十五日	100.35	100.85	98.05	100.00	131.00	131.00	131.00	450000	1100000	
十六日	100.35	100.85	98.05	100.00	131.00	131.00	131.00	450000	1100000	
十七日	100.35	100.85	98.05	100.00	131.00	131.00	131.00	450000	1100000	
十八日	100.35	100.85	98.05	100.00	131.00	131.00	131.00	450000	1100000	
十九日	100.35	100.85	98.05	100.00	131.00	131.00	131.00	450000	1100000	
二十日	100.35	100.85	98.05	100.00	131.00	131.00	131.00	450000	1100000	
廿一日	100.35	100.85	98.05	100.00	131.00	131.00	131.00	450000	1100000	
廿四日	100.35	100.85	98.05	100.00	131.00	131.00	131.00	450000	1100000	
廿五日	100.35	100.85	98.05	100.00	131.00	131.00	131.00	450000	1100000	

四九

受渡ニ付休會

二〇  
二三  
二四  
二五  
二六  
二七  
二八  
二九  
三〇  
三一  
三二  
三三  
三四  
三五  
三六  
三七  
三八  
三九  
四〇  
四一  
四二  
四三  
四四  
四五  
四六  
四七  
四八  
四九  
五〇  
五一  
五二  
五三  
五四  
五五  
五六  
五七  
五八  
五九  
六〇  
六一  
六二  
六三  
六四  
六五  
六六  
六七  
六八  
六九  
七〇  
七一  
七二  
七三  
七四  
七五  
七六  
七七  
七八  
七九  
八〇  
八一  
八二  
八三  
八四  
八五  
八六  
八七  
八八  
八九  
九〇  
九一  
九二  
九三  
九四  
九五  
九六  
九七  
九八  
九九  
一〇〇

四八

包頭米市帳  
東海運出

日	米	石	斗	升	合	受渡二付村會	計
廿五日	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
廿六日	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
廿七日	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
廿八日	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
廿九日	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
三十日	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
計	500.00	500.00	500.00	500.00	500.00	500.00	500.00

日	米	石	斗	升	合	受渡二付村會	計
廿六日	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
廿七日	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
廿八日	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
三十日	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00
計	400.00	400.00	400.00	400.00	400.00	400.00	400.00

(株) 商 品 市 場

昭 和 十 一 年	生 糸 (實 物)	蠶 絲 (精 算)	人 造 (算 算)	期 米	砂 澁 (十 一 月 限)
十 一 日	八 六 〇 . 〇 〇 圓	二 一 一 . 〇 〇 圓	六 三 . 五 〇 圓	二 九 . 七 七 圓	一 二 . 三 七 圓
十 二 日	八 六 〇 . 〇 〇 圓	二 一 一 . 〇 〇 圓	六 三 . 〇 〇 圓	二 九 . 五 四 圓	一 二 . 五 七 圓
十 三 日	八 七 五 . 〇 〇 圓	二 一 一 . 六 〇 圓	六 三 . 四 〇 圓	二 九 . 六 九 圓	一 二 . 六 九 圓
十 四 日	八 八 〇 . 〇 〇 圓	二 一 四 . 九 〇 圓	六 三 . 四 〇 圓	二 九 . 八 三 圓	一 二 . 五 八 圓
十 五 日	八 八 〇 . 〇 〇 圓	二 一 二 . 八 〇 圓	六 三 . 五 〇 圓	二 九 . 五 六 圓	一 二 . 五 〇 圓
十 六 日	八 七 〇 . 〇 〇 圓	二 一 五 . 六 〇 圓	六 三 . 三 〇 圓	二 九 . 六 四 圓	一 二 . 五 一 圓
十 七 日	八 七 〇 . 〇 〇 圓	二 一 四 . 一 〇 圓	六 三 . 八 〇 圓	二 九 . 六 一 圓	一 二 . 四 〇 圓
十 八 日	八 〇 〇 . 〇 〇 圓	二 一 六 . 五 〇 圓	六 四 . 四 〇 圓	二 九 . 七 八 圓	一 二 . 三 三 圓
十 九 日	九 〇 〇 . 〇 〇 圓	二 一 七 . 一 〇 圓	六 四 . 一 〇 圓	二 九 . 七 五 圓	一 二 . 三 〇 圓
二 十 日	九 〇 五 . 〇 〇 圓	二 二 〇 . 〇 〇 圓	六 四 . 七 〇 圓	二 九 . 九 一 圓	一 二 . 三 〇 圓
二 十 一 日	八 九 〇 . 〇 〇 圓	二 一 九 . 〇 〇 圓	六 四 . 七 〇 圓	二 九 . 七 九 圓	一 二 . 二 五 圓
二 十 四 日					

二十五日  
二十六日  
二十七日  
二十八日  
三十日

九二五・〇〇  
九二〇・〇〇  
九〇五・〇〇  
九〇五・〇〇  
九〇五・〇〇

二二二・四〇  
二一七・五〇  
二一八・〇〇  
二一八・九〇  
二一八・九〇

六五・四〇  
六四・三〇  
六四・六〇  
六四・九〇  
六四・九〇

二九・八二  
二九・七四  
二九・七九  
二九・七一  
二九・六三

一二・三一  
一二・二一  
一二・二九  
一〇・八〇  
一〇・八〇

受渡ニ付休會

受渡ニ付休會

二十四日	八二〇・〇〇	二二二・四〇	六五・四〇	二九・八二	一二・三一
二十一日	八二〇・〇〇	二二〇・〇〇	六四・三〇	二九・七四	一二・二一
二十日	八二〇・〇〇	二一八・〇〇	六四・六〇	二九・七九	一二・二九
十八日	八二〇・〇〇	二一八・九〇	六四・九〇	二九・七一	一〇・八〇
十六日	八二〇・〇〇	二一八・九〇	六四・九〇	二九・七一	一〇・八〇
十四日	八二〇・〇〇	二一八・九〇	六四・九〇	二九・七一	一〇・八〇
十二日	八二〇・〇〇	二一八・九〇	六四・九〇	二九・七一	一〇・八〇
十一日	八二〇・〇〇	二一八・九〇	六四・九〇	二九・七一	一〇・八〇

二十日	...	...	...	...	...	...	...	...	...
二十一日	...	...	...	...	...	...	...	...	...
二十二日	...	...	...	...	...	...	...	...	...
二十三日	...	...	...	...	...	...	...	...	...
二十四日	...	...	...	...	...	...	...	...	...
二十五日	...	...	...	...	...	...	...	...	...
二十日	...	...	...	...	...	...	...	...	...
二十一日	...	...	...	...	...	...	...	...	...
二十二日	...	...	...	...	...	...	...	...	...
二十三日	...	...	...	...	...	...	...	...	...
二十四日	...	...	...	...	...	...	...	...	...
二十五日	...	...	...	...	...	...	...	...	...

三 諸 説

一、税制整理ノ金融界ニ及ボス影響

(1) 一、税制整理ノ金融界ヘノ影響「一エコノミスト誌十月二十一日號  
 税制整理ハ多少ノ犠牲ヲ金融資本家ニ與ヘルガ、ソレハ結局公債  
 政策ノ圓滑ヲ期スルモノデアアル點ニ於テ、ソノ満足ヲ買ツテキ  
 ル、例ヘバ公債利子其他ノ源泉課税ニソノ現レヲ見ル。金融界  
 ヘノ具体的ノ影響ハ略々次ノ如ク思ハレル

(イ) 銀行預金ヘノ影響、銀行預金利子ノ課税ハ個人ニヨリ異ルノ  
 デ見透シ困難デアアル。唯郵便貯金利率ガ現在ノ儘デアラナラ、  
 銀行預金ノソノ方面ヘノ移動ハ相當アルデアラウ

(ロ) 銀行収益ヘノ影響、六大銀行一行宛略々半額四十万圓（純益  
 ノ約八分）ノ負擔増デアアルガ、之ガ對策トシテハ種々考ヘラ  
 レルガ、經費節約、積立金ノ減額及減配等ガ主ナモノデアラ  
 ウ。

（一）起債市場への影響、國債ト公社債ノ利廻リノ差ハ著シク狭マ  
ル、（例ヘバ）號三分半公債ト四分一厘バ！社債トハ一厘四  
毛ノ開キ）カラ公社債發行ノ條件逆轉運動ヲ起ルデアラウ。  
（二）低金利政策ヘノ影響、増税ハ金利低下運動ヲ停頓セシメル。  
サナキダニ金利低下ノ進行ガ停頓氣味ガアツタノニ、税整案  
ハ之ヲ促進シ部分的ニハ金利ノ反騰ヲモ示スデアラウ。コノ  
コトガ公債消化ニ悪作用ヲ及ボスコトハ勿論デアツテ、コ、  
ニ税整案ト公債消化ノ矛盾ガ存スル。

(2)

「新税制ノ金融市場ヘノ影響」ダイヤモンド誌十一月廿一日號  
税整案ニヨル負擔増ヲ減配預金利率下等ニ依ラズシテ、新ニ有利  
ナル投資ニヨツテ補填スルコトハ極メテ困難デアル。例ヘバ香  
通銀行半期約五百四十五萬圓ノ増税ハ總收入四億八千四百萬圓  
ニ對シ約百分ノ六一ニ當ル、若シ總收入中ノ二割ヲ以テ之ヲ補  
填センガ爲メニハ、ソノ部分ニ於テハ百分ノ五五ノ増收ヲ計ラ



一、地方債の発行は、地方自治体の財政を健全にし、地方の発展に資するものである。従って、地方債の発行は、地方自治体の責任である。

二、地方債の発行は、地方自治体の信用を高めるものである。従って、地方債の発行は、地方自治体の信用を高めるべきである。

三、地方債の発行は、地方自治体の財政を健全にし、地方の発展に資するものである。従って、地方債の発行は、地方自治体の責任である。

四、地方債の発行は、地方自治体の信用を高めるものである。従って、地方債の発行は、地方自治体の信用を高めるべきである。

五、地方債の発行は、地方自治体の財政を健全にし、地方の発展に資するものである。従って、地方債の発行は、地方自治体の責任である。

ネバナラヌ。即四分一厘利附社債（税引利廻三分八厘）ナラバ約二厘、四分ノ貸出金ナラバ二厘二毛ノ逆轉トナラネバナラヌ。然シテ投資中買換ヘラレルモノトシテハ免稅特權ノ無クナル三分半國債ヲ選バレルデアラウ。他ノ種ノ銀行ニシテモ同様ノ操作ヲナサネバナラヌガ、ソレハ極メテ困難デアル。從ツテ結局ハ金利逆轉カ、預金利下ニヨラネバナラヌガ、金利ノ逆轉ハ國債ノ不消化ヲ來スカラ、預金利下ノ道ヲトルベキデアル。國債ノ利廻低下ハ銀行投資ガ三分半公債ヨリ四分三厘社債ニ向フ傾向ヲ助長セシメ、或ハ更ニ進ンデ株式、貸出金ニ向ハシムル虞ガアル。

地方債社債ノ個人市場ハ潰滅スル、蓋シ個人投資家ハ概ネ課税所得三、五万圓程度ノモノガ多イカラデアル。此等資金ハ大部分ハ國債ニ、一部ハ株式ニ、更ニ一部ハ信託預金ニ流レ、反面地方債社債ハ金融機關ノ手ニ納マル

此の如き状態に於ては、公債市場の流動性が著しく減少し、公債の需要が供給を上回る状態に陥る。この結果、公債の価格は下落し、金利は上昇する。これは、公債市場の需給バランスが崩壊したことを示している。また、公債市場の流動性の減少は、銀行の貸出にも影響を及ぼす。銀行は、公債市場の不安定な状態を背景として、貸出の抑制を余儀なくされる。これは、公債市場の下落が、銀行の貸出にも波及効果を生じていることを示している。

今主トシテ個人方面ニ消化サレテキル二三流社債ノ起債ハ不可能トナル。資金ハ貸出又ハ單名手形ニヨリ賄レルコトニナルガソレハ資金供給難ノ爲メ金利ヲ反騰センメル虞ヲ多分ニ藏スル増税ニヨル國債利廻低下ハソレダケデ國債消化ヲ妨ゲル。右ノ如キ諸事情カラ地方銀行ノ合同ノ必然性ガ一層強マルデアラウ。

ニ、公債市價下落ノ意味

(1) 「準戦時体制ノ内在的矛盾」エコノミスト誌十一月十一日號日銀當局ハ三分半赤字公債發行價格割レヲ短資ノ引締リニ起因スルモノデアツテ國債ニ對スル信用ノ動搖カラ來タモノデナイト辯明シテ居ル。又増稅案ニヨレバ國債ハ優遇シテアルノデアアルカラ、公債市價下落ハ短資引締ニ起因スルモノト解スルヨリ外ナシト見ル說モ行ハレテキル。然シソレハ極メテ皮相ノ見解デアル。何トナレ











